9 こうげ町広報 September 2010 VOL.59

# 上毛

## 田舎暮らしを楽しむ「田園型ライフスタイル」

CONTENTS


● 町の掲示板 …… 2
● 食を育てる …… 8
● 町の話題 …… 9
● カルチャー …… 12
● 町の情報ひろば …… 14
特集 支えあうまち …… 16
安全・安心で暮らしやすいまち

### 9月の表紙

表紙の写真は、東山窯の畑辺さんです

上毛町に移り住み約30年。田舎暮らしを楽しむ陶芸家御夫妻です。まちのクリエーターとして、自らの作品制作はもとより、上毛町陶芸教室でたくさんの人たちに創造する楽しみを伝えています。P.16「こうげ素敵人」で紹介していますのでご覧ください。

Photo 上毛町フォトクラブ 森重了一

http://www.town.koge.lg.jp

町の花(春) 桜

町の花(秋) コスモス

町の木 梅


●編集・発行／上毛町役場企画情報課
〒871-0992
福岡県築上郡上毛町大字垂水1321-1
TEL 0979(72)3111
FAX 0979(72)4664

●印刷／築上印刷(有)


### 人の動き

7月31日現在

| | |
|---|---|
| ●人口 | 8,183 (+2) |
| ●男性 | 3,892 (−1) |
| ●女性 | 4,291 (+3) |
| ●世帯数 | 3,097 (−2) |

参考
平成17年10月11日合併時
●人口 8,499
●世帯数 3,057

### ごみの量

7月31日現在

| | |
|---|---|
| ●可燃ごみ | 140.62t (+18.08t) |
| ●カン・ペットボトル | 4.48t (+1.08t) |
| ●びん | 5.84t (+1.26t) |
| ●古紙他 | 18.00t (+4.43t) |
| ●可燃粗大 | 1.97t (−2.46t) |
| ●不燃 | 5.27t (-2.97t) |
| ●プラスチック製容器包装 | 1.88t (-0.06t) |
| ●紙パック、白色トレイ | 0.09t (-0.01t) |

PRINTED WITH SOY INK
地球に優しい植物性インク(大豆インク)を使っています。

こうげ素敵人

## 支えあうまち 安全、安心で暮らしやすいまち

田舎に移り住み、自然に囲まれた良質な空間を楽しみながら、クリエイティブな創作活動を行っているお二人を紹介します。

### 緑豊かな上毛町の「ムラ」が好きです

畑辺哲郎さん(下唐原)

「東山窯」の畑辺玄機です。大池公園ふるさと手づくり村で陶芸教室を始めて早いもので12年目となります。

生まれは中津市宮島町。大学進学とともに故郷を離れ、卒業後は唐津焼の窯元で修業をしました。そして、約30年前、当時の大平村に登り窯を開くとき、この場所への移住を決めました。

私の場合、移住のポイントとなったのは、窯を開くための環境選び。いろいろな場所を検討しましたが、風向きをはじめ、地理的条件などを考えると現在の場所がベストでした。

当時、木造だった役場、1つしかない信号機、舗装されていない道路、移住したての私の周りにあったものはどれも味わい深く、とても懐かしく思います。

陶芸教室のおかげで、これまで何百人もの人たちとふれあうことができました。ログハウスに宿泊した人が、そこにあるチラシを見て翌日陶芸教室に訪れてくれます。そこから、毎年北九州から来てくれるような常連さんも生まれ、本当に良かったと思います。

登り窯の燃料は松で、とても良い香りがします。焼き上がるには30時間くらい要しますが、その間、1;300度以上の窯の中で「焼き物が育つ」という感覚を持つことができます。自然に囲まれた空間が、そんな感覚をさらに引き立ててくれているのかもしれません。

田舎暮らしの楽しみのひとつは、昆虫や小動物が仕事場に入ってくることですね。昔は嫌でしたが(笑)チョウやカブトムシ、フクロウなんかがやってくると、みんな生きている仲間なんだと感じています。それに、上毛町は野菜がおいしいです。歳を重ねる毎に野菜の味が分かってきたような気がしています。

上毛町は緑が多く住みやすい町だと思っています。窯を開いたこの場所も、取り巻く環境も、仕事の内容なども何も変わっていません。この町自体にも変わらない「ムラ」の良さがあると思っています。

この町で焼き物(陶芸)を続けられたことを、日々感謝しています。

### 手仕事のこだわりを持ち 田舎暮らしにチャレンジ

平岡行夫さん(原井)

手づくりの道具
(さまざまなサイズの鉋)

木工作家で、原井に移り住んでもうすぐ5年になります。生まれは熊本市ですが、学生時代の大半を博多で過ごし、高校のときに工芸科で木工やデザインの勉強をしました。卒業後は、企業に就職し、大阪、京都、東京と各地で修業を重ね、26歳のときに「ビーバーハウス」を設立、念願の独立を果たしました。無垢の純木にこだわり、作品のほとんどはナラの木を使っています。曲線を取り入れた壁、窓枠、脚などは自然界にある動きを表現したものです。オーダーメイドで、インテリアをはじめ、ドア、看板、ポストに時計などの小物まで、さまざまな物を作ってきました。店舗の内装すべてを任せていただいたこともありますし、数寄屋建築を手掛けたこともあります。東京で開いていた個展には、メディアの力もあって、たくさんの方に会場に足を運んでいただいたことを感謝しています。

今は、亡き母の実家である原井に住み、倉庫を少しずつ改修しながら、小物を中心に作っています。これらの作品は、宮崎道生さん(尻高)の紹介により、7月から道の駅しんよしとみに展示させていただいております。機会がありましたら、ぜひ御覧ください。これからが本番。倉庫を本格的に改修し、始動しようと考えています。

都会に比べて田舎は不便に感じることもあります。材料もカタログから取り寄せないと手に入らないものばかり。しかし、この地でしっかり基盤を築いていきたいと思っていますので、これから田舎の良さを探究していきたいと思っています。

まだまだ、人のつながりが薄いため、木工教室などを通じて、もっともっと多くの方々とふれあっていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

### まちの駐在さん

地域と行政、そして警察が一緒になって「暮らしやすいまち」をつくっていくことが大切だと思っています。みなさんのお手伝いやきっかけづくりができればと日々邁進しています。

※日頃から私たちの暮らしの安全・安心を支えてくれている駐在さん。笑顔で写真撮影に応じてくださいました。これからもどうぞよろしくお願いします。

■安部さん(垂水駐在所)

■柴田さん(土佐井駐在所)

■井上さん(唐原駐在所)

### 編集後記

こんにちは。企画情報課の森重了一です。

今年の残暑は相変わらずの猛暑続きで、降雨もなく渇水が心配です。

日本の夏は「鎮魂の夏」。毎年、お盆にお墓参りすることで、御先祖様を敬う気持ちが持てたり、「いのち」の繋がりについて考えたり、また、お盆は終戦の日ということもあって「いのち」の尊さを深く考えたりしています。もうひとつ、お盆と言えば里帰り。毎年多くの人が故郷に帰るということは、それだけ町からも人口が流出しているということになるのでは…。どうしてでしょう?地元に働く場所がないから?都会が好きだから?

ICT(情報技術)の進化と普及により、どこにいても、欲しい情報をすぐに手に入れることができるようになりました。このことから、どこに住んでも、質の高い仕事をするコトが可能になったと言われています。

SOHOという言葉をご存知ですか?「Small Office/Home Office」の頭文字を取ったものです。SOHOの定義は確立していないようですが、一般的に、ICTなどを活用して、自宅や小さな事務所でビジネスを行っている事業者のコトをそう呼ぶコトが多いようです。やっている仕事は、パソコンの文字入力や会議録作成のテープ起こしなどの単純な内職系のものから、デザイナーやアーティストなどクリエイティブな仕事までさまざまです。

最近では、田舎暮らしに憧れる都会人が増えていると言われています。そして、同じ仕事をやるなら、雑多な都会を離れて、自然に包まれた静かで落ち着いた田舎の良質な時間が流れる環境の中でのほうが、より創造力を発揮できるのではないかと考えられています。SOHOワーカーとして、良質な空間の中で、自分の「ワークスタイル」が「ライフスタイル」にうまく溶け込むような、そんなイメージを持つことで、より豊かな生活が送れるようになるのではないでしょうか。

豊かな緑とおいしい水、空気、瑞々しい農産物が自慢の上毛町。このまちにも田舎暮らしを心から楽しんでいる人がいます。これからも田舎暮らしの楽しみ方を教えてくれる人が増えるといいなと思いながら、取材した東山窯の畑辺さん宅を後にしました。